

|         |   |
|---------|---|
| タイトル    | 2022 年度 学校推薦型選抜・帰国生選抜；小論文および面接試験  |
| 評価のポイント | <p>(小論文)</p> <p>特定の教科に限られない幅広い理解力・判断力・問題解決能力・表現力等を評価するために小論文試験を実施している。</p> <p>評価に当たっては、次の三点を特に重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題のテーマをよく理解したか。</li> <li>・問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。</li> <li>・記述に当たっての論理的な運びが正しく、論旨が明快であるか。</li> </ul> <p><b>問題 1</b></p> <p>障害を「生きるかたち」(=文化)と捉える著者の主張を踏まえ、「貧しい異文化接触」にならないための教師としての子ども達への接し方を述べ、かつ、そのような接し方ができる教師になるために自身は大学でどのような学びを行うかについて、わかりやすく簡潔に記述しているかを評価する。</p> <p><b>【問 1】 解答例</b></p> <p>障害をもたない人たちが、障害をもつ人たちの生きるかたちを、強引に自分たちの側に引き寄せ、同化させようとする事 (55 文字)</p> <p><b>【問 2】 解答例</b></p> <p>障害のある子どもに対する働きかけが「貧しい異文化接触」にならないためには、教師として、障害を「困難」や「弱点」といった側面からのみ捉えるのではなく、子ども達の「生きるかたち」や「1 つの秩序」と捉え、自身の持つ価値観や教育理念のみから教えるべきことや伝えるべきことを考えたり決めたりしないような構えをもつことが重要であると思う。そのうえで、子どもの言動等に敬意を払い、教師として何を教えるべきか、何を伝えるべきかを子どもと共に活動するなかで、子どもの有する個体条件やその時々の事情に即して考えることが求められる。</p> <p>このような態度を持って障害のある子どもたちに接することのできる教師になるためには、大学 4 年間のなかで、障害や病気に関する正しい知識を学んで身につけるとともに、どんな子どももその時々の思考や判断、感情を有する尊い存在であることを教育実習等で個別具体的に経験することが必要であるとする。 (397 文字)</p> <p><b>問題 2</b></p> <p>他者の心を理解することに関する筆者の主張を踏まえながら、単に機能面に着目した心の理解ではなく、仲間と共に生活する人として他者の心の理解とは何かを考えたうえで、学校教育では子ども達に他者の心の理解をどのように教えるのかについて、わかりやすく簡潔に記述しているかを評価する。</p> |

**【問1】 解答例**

知識や技能などが不足している他者に対して、単なる「大きなお世話」として他者の心を理解しないまま行う教示行為から、他者の心を理解するからこそ相手が求める教示行動、相手の上達を願う教示行動に発展すること。（100文字）

**【問2】 解答例**

子どもが「他者の気持ちを理解することの大切さ」を学ぶには、何のために他者の心を理解するのかを学ばせることが重要である。心理学研究を基にした他者の心の理解では、他者の心を理解できるのか否か、さらには、他者の心が理解できるためには発達のどのような条件が揃えば可能となるかといった機能に関心が寄せられる。

しかし、みんなのなかで共に過ごす1人の生活者として、他者の心を理解することは、単に機能としての理解ではなく、Aさんという特定の相手を考え、思いやって生活することである。そのなかで目には見えない心の動きが分かるようになると、人より仲良くできること、より役に立てるということを教えていくことが重要である。特に、小学校低学年の子どもには、「人の気持ちを考えて行動してね」のように単に言葉によって教えるのではなく、実際の活動を通して教えることが必要である。

例えば、特別活動などで、子どもが関わりたい友達の「助かるお手伝いを考えよう」といった活動設定が挙げられる。そこでは、決して、友達に何をして欲しいかを尋ねるのではなく、友達をよく観察して、友達の気持ちに思いを寄せてお手伝いを考える。また「お節介」にならないお手伝いを考えることが重要である。実際のお手伝いをした後には、友達から感想をもらう機会を設けることも必要である。それらの活動を通して、他者の気持ちを理解することの大切さを学ばせてあげたい。（599文字）

**（面接）**

将来、教員になるにあたっての資質を現段階において備えているかを判断するために面接試験を実施している。面接者の質問に適切に対応できているか、特別支援教育専攻に対する志望動機が明確か、基本的なコミュニケーションスキルや協調性を備えているか等から評価している。